

# 日蓮大聖人御書全集

しゆくんににゆうしほうもんめんよどうざいじ

## 主君耳入此法門免与同罪事

よどうざい

まぬか

こと

### (与同罪を免るるの事)

新版  
1539  
く  
1541

しゅくんににゆうしほうもんめんよどうぎいじ よどうぎい まぬか こと

# 主君耳入此法門免与同罪事（与同罪を免るるの事）

ぶんえい ねん がつ にち さい しじょうきんご

文永11年（'74） 9月26日 53歳 四条金吾

ぜににかんもん た お

銭二貫文、給び畢わんぬ。

うじょう だいいち たから いのち 過 うば もの かなら

有情の第一の財は、命にはすぎず。これを奪う者は、必

さんず お りんおう じゅうぜん はじ ふせつしやう

ず三途に墮つ。しかれば、輪王は十善の始めには不殺生。

ほとけ しょうじやうきやう はじ ごかい はじ ふせつしやう

仏の小乗経の始めには五戒、その始めには不殺生。

だいいじやう ほんもうきやう じゅうじゅうごん はじ ふせつしやう ほけきやう

大乘の梵網経の十重禁の始めには不殺生。法華経の

じゆりやうほん しゃかによらい ふせつしやうかい くどく あ そうろうほん

寿量品は釈迦如来の不殺生戒の功德に当たつて 候 品ぞ

せつしやう もの さんぜ しよぶつ

かし。されば、殺生をなす者は三世の諸仏にすてられ、六 ろく

よくてん

まも

よし

せけん

がくしや

し

欲天もこれを守ることなし。この由は世間の学者も知れり。

にちれん

粗

々

こころえ

そうろう

日蓮もあらあら意得て候。

せつしよう

しさい

か

ころ

もの

とが

きようじゆう

ただし、殺生に子細あり。彼の殺さるる者の失に軽重

わ

ふぼ

しゆくん

わ

ししよう

ころ

もの

返

がい

あり。我が父母・主君・我が師匠を殺せる者をかえりて害せ

おな

罪

じゆうざい

きようざい

ば、同じつみなれども、重罪かえりて軽罪となるべし。

せけん

がくしやし

ほけきよう

おん

これ世間の学者知れるところなり。ただし、法華経の御

敵

だいじだいひ

ぼさつ

くよう

かなら

むけんじごく

かたきをば、大慈大悲の菩薩も、供養すれば必ず無間地獄

お

ごぎやく

ごいにん

かれ

あだ

かなら

にんてん

しよう

う

に墮つ。五逆の罪人も、彼を怨とすれば必ず人天に生を受

せんよこくおう

うとくこくおう

ごひやく

むりよう

ほけきよう

く。仙予国王・有徳国王は、五百・無量の法華経のかたき

を打つて、今は釈迦仏となり給う。その御弟子、迦葉・阿難・

舍利弗・目連等の無量の眷属は、彼の時に先を懸け、陣を

やぶり、あるいは殺し、あるいは害し、あるいは随喜せし

ひとびと。覚徳比丘は迦葉仏なり。彼の時にこの王々を勧め

て、法華經のかたきをば父母の宿世の叛逆の者のごとくせ

し大慈大悲の法華經の行者なり。

今の世は彼の世に当たれり。国主、日蓮が申すことを用い

るならば、彼がごとくなるべきに、用いざる上、かえりて彼

がかとうどとなり、一国こそぞりて日蓮をかえりてせむ。上

う いま しゃかぶつ 成 たも みでし かしよう あなん

しゃりほつ もくれんとう むりよう けんぞく か とき さき か じん

ころ がい ざいき

かくとくびく かしようぶつ か とき おうおう すす

ほけきよう ふぼ しゆくせ ほんぎやく もの

だいじだいひ ほけきよう ぎようじや

いま よ か よ あ こくしゆ にちれん もうもち

かれ ouchi うえ くれ

方人 いっこく 拳 にちれん 返 責 しみ

がかとうどとなり、一国こそぞりて日蓮をかえりてせむ。上

いちにん しもばんみん

みな ごぎやく す ほうぼう

一人より下万民にいたるまで、皆、五逆に過ぎたる謗法の

ひと おのおの かれ かた こころ にちれん どうい

人となりぬ。されば、各々も彼が方ぞかし。心は日蓮に同意

み べつ よどうざい 脱 おんこと そうろう

なれども、身は別なれば与同罪のがれがたきの御事に候

しゆくん ほうもん みみ 触 まい

に、主君にこの法門を耳にふれさせ進らせけるこそ、あり

そうら いま おんもち との おんとが のが たま

がたく候え。今は御用いなくもあれ、殿の御失は脱れ給い

のち くち 慎 てん

ぬ。これより後には口をつつみておわすべし。また天も

いちじょうとの まも たも もう

一定殿をば守らせ給うらん。これよりも申すなり。

構 ごようじんそうろう 憎 ひとびと

かまえてかまえて御用心候べし。いよいよにくむ人々

狙 そうろう おん 酒 盛 よる いっこう とど たま

ねらい候らん。御さかもり、夜は一向に止め給え。ただ

にようぼう

さけ打

の

ごふそく

たにん

昼

女房と酒うち飲んで、なにの御不足あるべき。他人のひる

おん

懈

さけ

はな

隙

あ

の御さかもり、おこたるべからず。酒を離れてねらうひま有

かえ

がえ

きようきようきんげん

るべからず。返す返す。恐々謹言。

くがつにじゆうろくにち

にちれん

かおう

九月二十六日

日蓮

花押

さえものじようどのごへんじ

左衛門尉殿御返事